

作り手と住み手
互いの感性が寄り添う
海と富士山を眺めながら
時間をかけて育む住まい



「ここから見る夕焼けは本当にきれいです」と奥さま。モントーンでまとめたスタイリッシュなキッチンのカウンタートップは黒い御影石。ランプはRestoration Hardware。結婚前まで料理教室で教えていた奥さまは、将来ここで料理教室を開くのが夢とか。



1. 天井が高くのびやかなリビング。イタリア製の革張りのL字型ソファを置き、暖炉とTVをそれぞれ脱められるよう配置。アイアンの格子のスライドドアの向こうは玄関ホール。2. ダイニングから出入りできるスクリーンポーチは屋根の付いた半屋外空間。子供たちが遊んだり、バーベキューをする田中部のもうひとつのLDとなっています。

「この家で一番贅沢な場所をキッチンにしてもらいました」。シンク前に立つと、正面に見えるのは海と富士山。三浦半島のなだらかな丘の上に立つ田中部のキッチンからの眺めは、ちょっと羨ましいほど。眺望だけではなく、黒い木枠の格子窓に天然石のカウンタートップ、古材を用いた風合いのあるアイランドカウンターを囲むL字型のキッチンは、「ほとんどここにいます」という奥さまの言葉に深くうなずいてしまう、とびきり居心地の良い場所です。家づくりを依頼したのは、KONARA HOUSE。「コンクリート打ちっ放しのモダンな感じの家もいいなと思っていましたし、アメリカの西海岸っぽいミッドセンチュリーの感じや北欧系、TRUCKの家具も好きだったし……そんなのが似合う家もいいなと。でもKONARA HOUSEを見に行ったら、圧倒的な世界観、緑の中に家が佇んでいるあの感じに完全にやられてしまいました。好みが変わってしまったくらい(笑)」とご主人。実家の土地に家を建てるという恵まれた条件だったため、家づくりはゆっくりと時間をかけて進め、何度も打ち合わせを重ねました。LDKは白、黒、ベージュなどの飽きのこないニュートラルカラー、プライベートルームやクローゼットは好きな色に壁をペイントし、移動さえも楽しくなるようなドラマティックな空間が実現しています。壁の色に関しては、パウダールームはティファニーのブルー、ベッドルームは

「セックス・アンド・ザ・シティ」のカラーのクローゼットの壁の色……と、奥さまが好きなブルーの微妙な色のニュアンスを、具体的に伝えていったそう。今まではご主人の休日である火曜日も、ショッピングなど外出することが多かったという田中さん一家。この夏はスクリーンポーチでバーベキューを楽しんだり、芝刈りをしたり、少しずつ家で過ごす時間も増えていきそうです。風雨にさらされシルバーグレーに変わっていくであろう外壁や、呼吸をしながら艶色になっていくであろう天井や柱、梁の木材……。天然素材でつくられた家が、10年、20年と年月を経てどんな姿になっていくのか。「それを今から楽しみにしています」という奥さま。家族とともに育っていく家は、まだ産声をあげたばかりです。

田中部 Data

結婚後はご主人の実家数地内に暮らす。実家近くの見晴らしの良い土地に家を建て、2015年4月に完成。雑誌などで見て、実際に訪ね、強く印象に残ったKONARA HOUSE (<http://www.konarahouse.jp/>) に設計を依頼。神奈川県三浦市在住。153.10㎡。美容師のご主人・晴人さん(39歳)、奥さま・梨実さん(38歳)、二紅ちゃん(4歳)、鈴ちゃん(1歳)の4人家族。





入口をアールにし、壁を白にペイントしたドラマチックなクローゼット。内部のシステム収納はイケア。床はパウダーコートした大理石のタイル貼り。

セミダブルサイズのベッドを2つ並べた特大ベッドは特注で作ったもの。クッションはZARA HOME、ウォールランプはRestoration Hardware。



2人の娘さんの子供部屋。壁はピンク色のグラデーション、床は足触りの柔らかいリバーシブル素材。屋根勾配で斜めになった天井が屋根裏部屋のような雰囲気、家具や小物まで、なんとも可愛らしく装飾されています。ピンク色の大きな丸いランプは録音のクプリオで購入。窓辺に飾った娘さんのイニシャルの置物は、マリ居住の友人が彼の車で買って送ってくれたもの(1・3・4・5)。壁の一脚をディファニッシュブルーに塗ったパウダールーム。奥の壁のモザイクタイルとシェラランプは本編第1回目登場のF邸を参考にしよう。床は早田タイルの大理石のタイル張り(2)。広々とした玄関ホール。階段コート類の収納の間に壁を隠したり開物を置いたり何かと便利なベンチシートを設置しています(6)。



ベッドルームの一角にはご主人が購入した、アメリカのバスや地下鉄のロールサインを額装したもの飾っています。ジョージ・ネルソンのネルソンベンチの上は、読み聞かせの絵本置き場。

Tanaka's favorite collection



惚れ込んだ世界観に、色や小物で自分たちらしい個性を発揮

家づくりは時に想像を超える提案がありとても楽しかったとか。インテリアや素材へのこだわりはもちろん、本当は平屋にしたかったという希望を生かした。子供部屋以外が1階に配置された使いやすそうなプラン。「いつか家を建てた時のために」と少しずつ雑貨を買い集めていただけあり、引っ越して半年頃とは思えない仕上がりです。今後、奥さまは庭づくりを、ご主人はガレージに手を加えていくのを楽しみにしているとか。

1. アメリカの人気インテリアショップ、Restoration Hardwareのウォールランプはパウダールームの壁のミラーの間に設置。壁に塗ったペイントはデボアペイントというアメリカ製の塗料。この日奥さまが着けていた「GOOD MORNING」の赤い刺繍が目目を惹くオシャレなエプロンは、人気ブランド、オールマンズテラーの商品でリネン100%。3. リビン

グに置いたモロッコ原のトレイテーブルはZARA HOMEで。上の花器はサラグレースのもの。4. 子供部屋に色違いで置いたスチール製のチェアはB-COMPANYで購入。ラグはH.P. DECO。5. パウダールームの床は平田タイルが扱う、大理石のモザイクタイルをバスケットパターンに貼ったもの。6. 星や月が当たりで出てくるガチャガチャは、kiko+のg achagacha。7. ブルー好きな奥さまが、家を建てている間にひと目惚れをして購入したベルが通ったようなシャンデリアはH.P. DECOで。玄関ホールの高い天井から下げています。8. 料理好き、器好きな奥さま。中でも陶芸家・野村松花さんの器が好きだそう。持ち手が銀の形になった白鉄製マグと白鉄丸皿はネットで購入。9. ブルーのラインが爽やかなフェイスタールはロンハーマンのオリジナル。

本連載がきっかけで
鎌倉の豊かな
緑を愛でる
暮らしがスタート



奥さまの好きな色でまとめたベッドルーム。ブーランのウッドシャッターは風を通し、偏斜しも調整できて寝室に最適。ベッドカバーやクッション類はZARA HOMEのもので、新築祝いにおKONARA HOUSEから頂いたそう。



1



2

「こんな家に暮らしたい!」

きっかけは本連載17回目に掲載されたKONARA HOUSEの家。奥さまが誌面を見てその場で資料請求をし、その後アポイントを取って、当時暮らしていた三重県から茅ヶ崎まで車で通ったという驚くべき行動力です。「それまで家を建てるなんて思ってもいなかったのですが、世界観がどんぴしゃで、まさにひと目惚れでした。こういう家なら湘南に建てるのが良いだろうと、まずは土地探しからお願いしました」。その後、ご主人の転勤で再び東京に戻った際には、家具屋めぐりに便利だからと目黒通り近くで暮らすほどの徹底ぶり。お嬢さんの小学校入学に合わせて、2016年の3月に鎌倉の新居での暮らしがスタートしました。購入した土地は50年近く前に造成された閑静な住宅地にあり、長く空き地だったため大木が茂っていたとか。家を建てるために伐採したところ、目の前が森だったというサプライズも。思いがけず、ダイニングキッチンやリビング、お風呂からも緑と空しか見えない、まるで別荘にいるかのような自然と寄り添う暮らしとなりました。「マンション暮らしだったので、お風呂に窓があるだけでこんなに気持ちが良いんだと感激しました」と奥さま。ご主人は「ポーチで森を眺めながら読書するのが週末ごとの楽しみです」とにっこり。他にもバーベキューをしたり、庭で野菜を育てたり。広いキッチンではご主人も料理の腕をふるうようになったそう。「家で過ごす時間が長くなり、すっかりお金を使わない暮らしになりました」。

プランは、奥さまが料理やリボンのお教室をするために1階をダイニングキッチンのあるパブリック、2階はリビングと個室のあるプライベートとキッチリスペースを分け、お教室中も家族にストレスをかけないよう工夫しています。1階はグレー、2階はベージュを基調にし、洗面、トイレや個室はテーマカラーを替え、扉を開けるとガラリと印象が変わる楽しさも。作り手と住み手のセンスの相乗効果で、「結婚してもこの家で暮らしたい」と娘さんが言うほど、とびきり素敵で快適な家に仕上がった柚木邸。

本連載がきっかけなんて……感激です。

柚木邸 Data

百貨店マンション暮らしを経て、本連載でひと目惚れしたKONARA HOUSE (http://www.konarahouse.jp) に土地探しから設計施工までを依頼し、家を建てる。・神奈川県鎌倉市在住/ 約150m² ご主人、一記さん(42歳)、料理&リボンワーク教室Grege (http://ameblo.jp/grege-salon) を主宰する奥さま、男子さん(42歳)、紅ちゃん(6歳)の3人家族。

1. 1階はグレーを基調にしたパブリックエリア。キッチンはKONARA HOUSEのオリジナルで、L字部分の扉は白、アイランド部分のみグレーに。壁のタイルは奥さまが選んだお気に入り。2. ダイニングテーブルは幅170cmのものを2つ並べ、大人数のお教室時にも対応できるように。照明と一緒にアップタウンスタイルホームで購入。



網戸付きのポーチに吊るしたハンギングチェアで読書をするのがご主人のリラックスタイム。下にはテラスがあり、レモンの収穫も(1・2)。2階のリビングは天井も高く開放的。ご主人の机も置き、家族がゆったり寛ぐ場に。階段には娘さんがシーンを貼った貝殻が(3・4・5)。テーブルセッティングや小物のあしらいにセンスを発揮。ランチのメインはご主人お手製のドリア(4・5・6)。玄関横には靴、コート、バッグ、アクセサリー類まで収納できる大きなクローゼットが。外出前の身支度はここで完成(7)。バスルームからは森しか見えず「週末は明るいうちに入り、主人はビール、娘はアイスを食べたりしています」(8)。ダイニングの窓辺にはソファ代わりのベンチシートを設置(11)。

Yugi's favorite collection



1. 主に来客用の1階のトイレは壁や収納扉をブルーの濃淡で塗り分け、床や天板は大理石に。入った瞬間に思わず息を呑む、限々まで美しく洗練された内装です。2. グレーベージュに壁を塗った広々としたパントリー。手前にはパソコンを置いた高さの仕事情があり、食器や食品などの収納スペースもたっぷり確保。3. 2階のバスルーム横の洗面スペースは、奥を基調に天板を大理石、水栓金具やフタミをゴールドでまとめたシックな仕上がり。さらにスタイリッシュでホテルライクな水まわりです。



デザインの美しさだけでなく、収納、設備と機能面も充実した快適な住み心地

「家具や照明、壁紙などは自分で選びました」と、もともと家具やアートを扱うショップに通い、大のインテリア好きという向さき。KONARA HOUSEに出会う前はもう少しモダンなインテリアも好きだったそう。今はこの家に合うか否かが家具や食器を選ぶ時の判断基準。パントリーにクローゼットと収納がたっぷり確保され、全館空調や床暖房も設備された、機能性も抜群の快適な住み心地です。

1. ベッドルームの壁紙は、用さきがWALPAでセレクト。大好きなバーブルがかったモーヴピンクにキラキラと光るグレーの模様が気に入りました。クローゼットの扉や板壁もグレーに。2. 1階のゲスト用トイレのペーパーホルダーは、ヤスダプロモーションが扱うCALIFORNIA Euro collectionシリーズ。3. ダイニングルームの窓辺に設置したベンチシートには、Z

ARA HOMEのフェイクファーのブランケットとクッションを。4. ベッドルームとリビングのペンダントランプは、オルネド・フォイエの姉妹店、アンスピラシオン（現在は閉店）で。コードを隠すために、お手製のピンクの布で覆っています。5. 真鍮色のキッチン水栓金具は、コーラー社。ソーブディスペンサーもビルトイン。カウンターの天板は真の大理石。6. フォルムとしたフォルムが可愛らしい自立するバターナイフはダルトンで購入。7. お教室でも普段使いにも活躍するフランス、Côté Tableのグレーのディナープレート。食洗機や電子レンジもOK。8. イタリアのBaci Milano社のアクリルのグラスは、割れる心配もなく、ピクニックやバーベキューなど外で使うの必需品。9. フルーツを入れたステンレスのカゴは、ハフコレクションで見つけたもの。